

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273100295		
法人名	社会福祉法人 天祐会		
事業所名	グループホーム富士見苑		
所在地	千葉県富津市篠部2310-3		
自己評価作成日	令和2年3月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.tenyuukai.jp/fujimien_main.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	〒275-0001 千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和2年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>ご利用者が自分のペースで生活できるようにすると共に、健康・安全面で不安が起らない支援を心がけている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>施設は、右手に富士山、左手に東京湾観音、正面に伊豆大島を見、日の出・日の入りに感動を受ける絶景の地に位置した2ユニットのグループホームである。私達は「ご利用者様第一主義」を理念とし「やさしさ」「思いやり」「あたたかさ」のある支援を心掛けますと言う法人の基本理念と、ホームの運営方針「安心、安全、穏やか」を掲げ、利用者がやりたいことが出来、また、のんびりと過ごせるような支援を行っている。地域の自治会に加入し、敬老会でゲームやカラオケ大会等に参加したり、公民館で行う浜千鳥会にも参加し地域交流を行っている。初詣は東京湾観音や君津の神社へ行き、ユニット毎に金谷ホテルへバイキングを食べに行ったり、ドライブをしながら桜を見に行ったりしている。ホームでは毎年のように看取りが有るが、重度化すると家族と相談をし方針を決め、主治医の指示を仰ぎながら対応している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

1 自己評価及び外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念、富士見苑の運営理念を掲示、月、一度の職員会議にて理念の唱和を実施している。	法人の基本理念とホームの運営方針(安全、安心、穏やか)を事務室とフロアーに掲げ、毎月末に行う職員会議で唱和している。日常業務では、利用者と接する時は特にスピーチロックに気を付け、利用者が自分のやりたいことが出来、のんびり過ごせるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敬老会や座談会へ参加し、地域と交流しているが、日常的な交流は殆どない。	地域の一員として自治会に加入し、地域の行事である敬老会でゲームや踊り、カラオケ大会等に参加し地域の方々と一緒に弁当を食べ交流している。また、公民館で行う浜千鳥会には、国会議員や市長、社会福祉協議会、市の職員なども来て交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に支援経過を報告する以外は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	身体拘束(スピーチロック)や災害時の避難等について意見を頂き、サービスに生かしている。	年6回開催される運営推進会議は、介護保険課や地域包括、区長が参加するが家族の参加はない。3月の会議はコロナウイルスの関係で延期になった。会議は利用者の現況報告や写真による行事の報告等の後にそれぞれから質問や意見、通知等があり、話し合いが行われている。	出来る限り家族及び地域の方々の参加が出来るように工夫することが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者和との連絡は殆ど行っていないが、時々、生活保護者の入所相談を受けている。	管理者は市の生活保護課へ生活保護者の関係で書類を提出に行ったり、相談に行ったりするが、コロナウイルスや台風等の状況などに関しては、メールや電話での応答が殆どである。市の担当者は来訪し利用者の状態を見たり居室で話をすることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、身体拘束は行っていない。玄関の施錠については、20時に施錠し、翌朝の5時頃、開錠をしている。	身体拘束関係については、管理者が講師となりインターネットから資料を取り出したり、厚労省の資料を利用して事例を挙げて年3回以上の研修を行っている。スリーロックの内、特に「～しちゃだめ」とか「立ち上がらないで」などのスピーチロックに力を入れた研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について職員研修を実施。また、虐待や虐待類似行為があれば、直ぐに報告し、職員間で注意をする様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会はない。現在、日常生活自立支援事業利用者1名、成年後見人制度利用者1名がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や退所時に不明点がないか確認をし、何か分からない事があれば、連絡をするように伝えている。改定があった際には、文章で通知をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や利用者の要望等を外部に表せる機会は運営推進会議しかない。施設内部では職員会議や朝礼、昼礼等で伝えている。	毎月受診記録や歩行が困難になってきたなど利用者の現況を書いたお便りを請求書と一緒に送付し、家族からは主に電話で再受診の問い合わせや現況の詳細についての問い合わせがある。職員会議で、家族からの問い合わせ等を話し合い共有するようにしている。	利用者の現況等が目で分かるように、家族へのお便りに利用者の写真を添えることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や随時に意見や提案を聞いている。	職員会議では、利用者の足がむくんでいるので受診したほうが良いとか、畳部屋の利用者が立ち上がりづらくなってきたのでベッドにしたほうが良い等の意見が出てくる。職員個別では、利用者とのやり取りの中で口調が荒い時など都度呼んで面談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算の算定、昇給の実施、手当の見直しを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、施設内研修を実施、また、外部研修に出席されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に希望や要望がないか尋ね、入所後も何かあれば、施設側から訪ねまた、利用者からも何かあれば、遠慮なく質問するように話している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設を利用するにあたり、家族に要望、不安等がないか尋ねると共に、施設利用中に何かあれば質問する様、伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設利用前にアセスメントや聞き取りを行い、必要なサービスの見極めをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は職員と一緒に家事を行い、何か行いたいことや行きたい場所について尋ね利用者と共に生活が出来る様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に利用者の要望、状態を伝え病院受診や面会、買い物依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	連絡したい方がいれば、連絡の取次ぎをおこなっている。	利用者はADLが低下してきているため、個別支援は殆どなく買いたいものがあると職員が買ってきている。初詣は東京湾観音や君津の神社へ行き、ユニット毎に金谷のホテルにバイキングを食べに行ったり、お菓子を買ってドライブをしながら公園に桜を見に行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り、利用者同士の関係作りが出来る様に支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から相談があれば応じているが、施設側からは行っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者を支援してい中で、ご利用者の要望や意向を把握し、出来る限り本人の要望が実現出来る様にしている。	その人なりの特性を把握することに努めている。例えば、あまり言葉を掛けすぎると落ち込んでしまう利用者もいる。このような時は、優しく接して相手の表情を見ながら、言葉を考えそして話の間を取って思いを汲み取るよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人からの聞き取りや他の事業者の記録から把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや様子観察を行い、ご利用者の状態把握を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員と話し合い、利用者の状態にあった介護計画の作成をしている。	シルバーカーを使っていた人が転倒の危険性が出てきたため、一部車イスに切り替えてはという意見が出てきた。このような日ごろ気づいたことが「業務日誌」に当日の担当者が記帳、あるいはその時に気付いたことを職員が「ケース記録」として記録に残され管理されている。これらの情報がケアプランの見直し時に役立てられることが多い。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌やケース記録に利用者の状態を記録し、情報共有や介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に対しては、出来る限り対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	観光地や飲食店等を把握し、行事に活かし変化のある生活が出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	基本的には主治医に受診をしているが、主治医が対応できない場合には、他の利用者や家族が希望する医療機関があればそちらに受診をするようにしている。	入居前からのかかりつけ医に診てもらっている人はいない。利用者全員、主治医の田中ハートクリニックによる月1回の往診を受けている。バルーンカテーテルをしている人がおり、月1回看護師が訪問しその時に他の利用者からも話を聞き相談に乗ってもらっている。整形外科、皮膚科、精神科等に掛かる場合は、主治医から紹介され職員が通院に同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や訪問看護時に利用者の状態を伝え適切な医療が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適時、随時に連絡をし、適切な治療と早期の退院が出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や入所後に終末期や重度化した際の対応について家族や利用者へ尋ね、施設が行えること説明し、終末期や重度化した時の方針を決め、それを主治医に報告している。	看取りに関しては、入居時に家族の意向を確認している。今年度、施設での看取り実績は2件あった。利用者に変化が見られれば、「メディカルケアステーション」という名称で主治医と頻りにメールのやり取りが行われ指示を仰ぎながら対応している。看取りということがはっきりすれば、医師のもとに家族を連れて相談に行き対策が検討される。施設内の看取りとなると、朝礼・昼礼等で職員に周知を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	あまり行なってはいない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	基本的に年3回の避難訓練を実施し、避難訓練の様子を運営推進会議時の報告し、地域の協力を得られる様にしている。	目標達成計画の一つである年3回の避難訓練は、津波を想定したものを含め計画通り実施された。台風15号の際は、1週間の停電に遭遇した。今回の経験をもち、次年度はソーラーパネルを新たに設置し蓄電することで災害時の電気を確保することを課題に挙げ、予算化することにした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧で優しい声掛けをする様にしている。	とかく厳しい言葉の声掛けは、上から目線となり利用者をないがしろしているように受け取られてしまう。極力、優しい言葉での声掛けに注意している。人としての尊厳を大切にす意味からもトイレ時はカーテンの外側からの見守り、入浴時の着替えの配慮等認知症の人でも普通の人と一緒にということを強く意識して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者に何でも職員に話す様に伝え、また、話しやすい様に穏やかな雰囲気です接するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等、以外は利用者の思いのままに生活できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が出来ない方は職員が行い、自己決定出来る方は、その利用者に尋ね行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は職員が行なっているが、後片付けやオヤツ作りは職員と一緒にしている。	食事メニューは本部のケアハウス大佐和園で作ったメニューを使って、内部での調理を行っている。利用者によっては、食材を変えた料理の提供も行う。食事中はテレビを見ながら歓談しての食事が多い。3時のおやつにフレンチトースト、ういろ、焼きそば等を利用者も加わり作って楽しんでいる。外食は月1回、ユニットごとに車で「とんでん」「大江戸温泉物語」等へ足を延ばしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嚥下状態や摂取量を見て、個々の利用者にあつた、食事形態を提供し、また、食事摂取状態や体重を主治医に伝え、栄養確保が出来様になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は本人に任せ、時々、口腔内のチェックを行い、自分で出来ない方はイソジンで口腔清拭を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、定時・随時にトイレへの声掛け、誘導を行っている。現在、オムツ使用者は1名。	排泄の自立支援の背景に、トイレで排泄する行為そのものが、利用者は排泄までの段取りを組み立てることにある。このことが脳の活性化を高め健康維持に繋がると考えているからである。排泄管理表をもとに、こまめにトイレ誘導の声掛けに注意している。トイレ間隔に変化が見られると、医師に相談している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量を多くし、レクリエーション等で体を動かし便秘防止に努めている。また、便秘の状態を主治医に報告し、便秘薬の処方検討をして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は2日おき等、ローテーションで入浴をしている。入浴希望があった場合には、入浴可能であれば入浴をしている。	ゆず、菖蒲等職員が家から持ってきて、季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯を楽しむこともある。あるいは入浴剤を使って入浴に変化を取り入れることもしている。入浴を拒否する人には、医師や看護師にお願いして利用者に「お風呂に入ってきれいになることが健康になるんだよ」と、声を掛けてもらうことがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、睡眠は利用者の自由で行なっている。日中、自分で休めない方は、職員が利用者の様子を見て、ベッド誘導をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬の説明書で用法、用量、副作用について確認できる様にしている。また、服薬中に変化があれば、主治医に報告をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個々の状態に合わせて、職員の手伝いやレクリエーションを実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	人員の関係上、その日の希望にそって戸外に行くことは困難である。日程を調整し、外出するようにしている。また、家族に外出依頼をしている。	施設の裏は藪が続いており、以前、散歩の途中に行方不明となったこともあり、散歩は取り止めている。体を動かしてもらう意味からも館内清掃、段ボール箱の片付け等の軽作業を手伝ってもらうことがある。暖かい日などは、玄関先の花壇や、土手に咲く花を愛でてもらっている。年間の外出計画の中にはドライブでの外食、花見等が組まれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理を行い、利用者から購入希望があれば、職員が買い物を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓を心がけ、季節の飾りつけを行い生活感が出せる様にしている。	リビングで気持ちよく過ごしてもらうために、 unnecessaryなものは置かない、床に水がこぼれていたら直ぐに拭き消毒をし清潔感を保っている。また、皆で楽しむ時間を作るため、七夕飾り、クリスマスツリー、8月には夏祭りでゲームを楽しみ、おやつを頬張る等工夫を凝らし退屈しない環境づくりを目指している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースはいつでも自由に使用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使用していた馴染みの物を持ち込み生活しやすくしている。	施設には畳部屋とフローリングされた部屋があり、空室次第だが入居時に部屋を見てもらい、どちらが良いか選んでもらっている。部屋でテレビを見たり読書をして自分の時間を楽しんでいる人もいる。また、ユニット間を利用者同士が行き来して、部屋で1時間ほど雑談をしながら笑い声が聞こえてくることもよく見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や段差の解消、張り紙等を行い安全、安心して生活できるようにしている。		